第26回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業

26th Los Angeles High School Student Exchange Program

報告書

Report

平成 24 年 8 月 9 日～24 日

August 9-24, 2012

名古屋市市長室国際交流課

International Relations Division, Office of the Mayor
City of Nagoya

目次　*Contents*

■ 目次　Contents　・・・・・1
■ はじめに　Introduction　・・・・・2

■ 第 26 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業について　・・・・・11
The 26th Los Angeles High School Student Exchange Project

■ 第 26 回ロサンゼルス交歓高校生・引率者　・・・・・13
The 26th Los Angeles High School Exchange Students and Chaperone

■ ホストファミリーと交歓高校生との組み合わせ　・・・・・14
Pairings of Host Families and Exchange Students

■ 滞在日程　Itinerary　・・・・・15
■ 事前研修会　Preliminary Orientation　・・・・・17
■ 名古屋市役所表敬訪問　Courtesy Call to Nagoya City Hall　・・・・・18
■ 思い出の写真　Memorable Photos　・・・・・19
■ 帰国報告会　Return Report　・・・・・25

■ 自主研究テーマについて Individual Research Themes：

阿部まゆ子（愛知淑徳高等学校 1 年）　・・・・・26
Ms. Mayuko Abe　Aichi Shukutoku Senior High School 1st year
『Japanese Recognition』

岡田七海（名古屋市立名東高等学校 1 年）　・・・・・36
Ms. Nanami Okada　Nagoya City Meito Senior High School 1st year
『School Life of Teenagers in L.A.』

津田翔也（名古屋市立名東高等学校 2 年）　・・・・・40
Mr. Shoya Tsuda　Nagoya City Meito Senior High School 2nd year
『Difference between Nagoya's Transportation System and Los Angeles' Transportation System』

長濱祥子（名古屋市立菊里高等学校 1 年）　・・・・・45
Ms. Shoko Nagahama　Nagoya City Kikuzato Senior High School 1st year
『Nisei Week Parade』

■はじめに

「第 26 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業を振り返って」

名古屋市立名東高等学校　教諭　伊藤聡子

平成 24 年 8 月 9 日（木）から 24 日（金）までの約 2 週間、第 26 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業の引率者として、派遣生 4 名と共に、大変貴重で有意義な経験をさせていただきました。以下、事前の準備を含め今回の派遣事業を振り返りたいと思います。

＊事前研修会・名古屋市役所、アメリカ領事館 表敬訪問

出発前には 2 回の事前研修会が行われました。1 回目は 7 月 8 日（日）に行われ、派遣生徒自己紹介、当事業の主旨・概要のなどの説明、前回派遣生徒からの助言、旅行手続きを含めた事前準備に関する内容でした。2 回目は 7 月 21 日（土）に行われ、英会話の練習や、現地で披露する出し物の最終確認をしました。生徒 4 名はすぐに打ち解け、持ち物や心構えを確認し合い、出発に向けて順調に準備をすすめていくことができました。

7 月 25 日（水）には名古屋市役所を表敬訪問し、住田副市長及び国際交流課、教育委員会の方々から激励の言葉をいただきました。その後は、アメリカ領事館を訪問しました。様々な立場の方から声をかけていただき、生徒自身も意気込みを発言する中で、名古屋市の高校生代表としてこの派遣事業に参加する責任感とやりがいが、さらに芽生えてきた様子でした。

＊ロサンゼルス到着・ホームステイ

8 月 9 日（木）昼、成田を経由しロサンゼルスに到着しました。空港では、ホストファミリーの方々が、ポスターやバルーンを掲げて、盛大に出迎えて下さいました。温かい歓迎に私達の心も安らぎ、それまでの不安から一気に解放されました。

その後 2 週間、ホストファミリーの家で過ごした時間は、生徒にとってかけがえのないものとなりました。ホストファミリーは、メキシコ系であったり、中国系であったり、同じアメリカ人でも家庭内で話している言葉が異なり、食事が異なり、「人種のるつぼ」と言われるアメリカ文化を肌で体感することができました。ほぼ毎日、ホスト生徒と朝 7 時 30 分に登校し、授業が終了する 16 時以降は、各生徒と放課後の時間を楽しむなど、普通の高校生の暮らしを体験することができました。また家の中では、徹夜で宿題をする姿を見るなど、アメリカの高校生の自律性に感心した事も多かったようです。どのホストファミリーも、名古屋の生徒たちを家族の一員として迎えいれていただき、心から感謝しています。

＊ロサンゼルス市役所・市議会訪問

到着翌日 8 月 10 日（金）、派遣団としての大きな役割の一つといえるロサンゼルス市役所・市議会訪問を行いました。市役所のセキュリティを通ると、入口で名古屋市の河村市長とロサンゼルスのラボンジ市議会議員が対面する場に居合わせ、ラボンジ議員の部屋へ案内していただきました。その後、市役所内を見学し、市議会を傍聴することができました。

市議会では、河村市長が演説の中で、生徒たちにも声をかけていただき、一緒に壇上に立つ機会まで与えていただきました。その後、一緒に記念撮影する機会にも恵まれました。この様子は、名古屋の地元紙にも掲載され、生徒にとって非常に名誉な体験となりました。

＊二世週パレード

8 月 11 日（日）、リトルトーキョーで二世週祭が行われ、生徒は全員浴衣を着て参加しました。パレードに先立ち、Sakura Children's Exhibition で名古屋の小中学生の絵画を観覧していたところ、前日に引き続き河村市長の視察に立ち会うことになりました。その後行われたセレモニーでは、市長と共に歌を歌う流れとなり、地元の方との交流行事に参加することができました。夕方にはパレードに参加し、大勢の観客が見守る中、消防車に乗ってリトルトーキョーを一周しました。途中、インタビューを受けた生徒が名古屋の歌をリクエストされ、「燃えよドラゴンズ」を歌って沿道の見物客から喝采を受ける一幕もありました。二世週祭は、毎年この時期に行われる日系アメリカ人のお祭りで、生徒たちはアメリカに根付いた日本文化を体験することができたと思います。

＊ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学

二週間余りのロサンゼルス滞在の中でも、生徒にとって思い出深く、貴重な体験となったのは、現地校への体験入学だったのではないでしょうか。今回はロサンゼルスの引率の先生やホスト生徒の皆さんが通う学校、ダウンタウン・マグネット・ハイスクールが、学校全体で名古屋の生徒たちを温かく迎えてくれました。学校側のご厚意で、数学、政治学、心理学などの授業に参加させていただくこともできました。また、アメリカではちょうど新入生が入学した時期であり、ランチタイムには Leadership（日本の生徒会にあたるメンバー）が企画した新入生歓迎会が行われ、名古屋の生徒たちも参加しました。ドーナツ早食い競争やダンスなど、現地の高校生に交じって一緒に盛り上がった記憶は、忘れられないものとなったでしょう。

8 月 17 日（金）の授業後には、Cultural Exchange Potluck Party として派遣生の歓迎会を開いていただきました。こちらも Leadership が中心となって準

備・企画し、とても楽しい盛大なパーティーとなりました。近くの高校で日本語を学ぶ生徒たちも参加し、総勢 50 名近くの人たちが食べ物を持ち寄って集まりました。LA 派遣団のペレー先生は平成 23 年に名古屋を訪問した時の写真を紹介したり、名古屋の生徒は練習してきた「名古屋まるはち音頭」を披露するなど、文化的な交流を行うこともできました。名古屋の⑧のロゴを紹介した後、出席者全員が輪になって笑顔で踊ってくれた時は、本当に感動しました。

＊大学・博物館見学

8 月 14 日（火）には FIDM(Fashion Institute of Design and Merchandise)というファッション・デザイン系の大学を見学しました。派遣生 4 名のうち 3 名が女子ということもあり、FIDM が作成した衣装や家具のデザインについて、興味深く見入っている様子でした。8 月 16 日（木）は、授業後に全米日系人博物館(Japanese-American National Museum)を見学しました。日本人のアメリカ移住の歴史、戦時中の日系人の暮らし、様々な苦難を超えて現在があることを学び、さらに私たちが参加した二世週祭の意味を深く考える機会となりました。8 月 20 日（月）には USC(University of South California)を見学しました。桁違いの広いキャンパスと立派な施設と最先端の教育を見て、留学に対する憧れを抱いた生徒もいたようです。

＊バーベキューパーティー・市内見学

ロサンゼルス滞在中には、アメリカの娯楽を体験させていただく機会もありました。8 月 11 日（土）には LANSCA 委員ランゲンバークさん宅で、バーベキューパーティーを開いていただきました。お宅にはプールがあり、水遊びをしながら食事を楽しむという、アメリカの優雅な時間の過ごし方を体感させていただきました。8 月 10 日（金）午後にはハリウッドの街を見学して映画を観たり、8 月 13 日（月）にはユニバーサルスタジオを訪れたり、アメリカのエンターテイメントの迫力と、スケールの大きさと、娯楽を心から楽しむ国民性を実感しました。8 月 15 日（水）には LA 動物園や Griffith Park Observatory を見学し、ロサンゼルスの自然や眺望を楽しむことができました。

＊サヨナラパーティー・帰国

最後の滞在日となる 8 月 21 日（火）は、体験入学を行った後、夜にサヨナラパーティーを開いていただきました。ところが予約していたフレンチレストランが、一部停電となるアクシデントが起きました。店内の電灯がつかないだけでなく、準備していた電子機器が一切使えないという予想外の出来事に、一時呆然となりました。しかし出席者の機転で車を使って発電し、何とかコンピューターとプロジェクターを起動させ、パーティーを進行することができました。

店内は暗いままでしたが、数少ないロウソクの灯りを頼りに、ムードある雰囲気で会は進行しました。暗闇の中で上映された思い出の写真の数々は、余計に出席者の感動を誘いました。また、予想外のアクシデントに関わらず、「このキャンドルパーティーを楽しもう」という肯定的な思考に、欧米人の強さと、日本人に足りない大らかさを学んだ気がします。暗い中ではありましたが、生徒たちは「名古屋まるはち音頭」を発表し、LANSCA の方々も名古屋まつりの法被を着てウクレレ演奏を披露するなど、名古屋とロサンゼルスの友好を象徴するパーティーとなりました。最後に、生徒が 1 人ずつホスト生徒に向けてメッセージを披露すると、どの生徒も涙が止まらなくなりました。その様子を見て、出席者の誰もが、この 2 週間で結ばれた絆がどれほど深いものかを知りました。

8 月 22 日（水）帰国の途に就くはずが、飛行機のロサンゼルス出発が 5 時間遅れ、成田で 1 泊することとなり、帰国日が 1 日遅れて 24 日（金）となりました。サヨナラパーティーに続いて起こった予想外のトラブルに、不測の事態にも、柔軟に冷静に対応する必要性を学んだ経験となりました。

以上、毎日、毎時間が発見と学びと感動に満ちた本当に充実した 2 週間でした。姉妹都市という大きな友好関係に守られて、国も言葉も違う高校生同士が交流を深め、友情を築き、お互いが視野を広げた体験は、必ず各生徒の将来につながり、国際社会で役立つことと思います。今後もこの派遣事業がますます発展し、多くの高校生がさまざまな経験を通して成長していくことを心から願っております。

最後になりましたが、今回の派遣事業が無事、成功のうちに終了しましたのも、ホストファミリーの方々、LANSCA の関係者、名古屋市国際交流課、教育委員会、全ての皆さまのご支援、ご協力のお陰です。心から感謝を申し上げます。

■Introduction

Looking Back on the 26th Los Angeles High School Student Exchange Project

Satoko Ito
Teacher, Nagoya City Meito Senior High School

During the 2 weeks starting August 9 (Thu) and ending August 24 (Fri), 2012, I had a very valuable and meaningful experience together with the 4 exchange students as chaperone to the 26th Los Angeles High School Student Exchange Project. I would like to recount this year's student exchange project below, including the necessary preparations.

Orientation and Courtesy Calls to Nagoya City Hall and the American Consulate

Before the trip, we had 2 orientations. The first was held on July 8 (Sun), during which there was an introduction to the exchange students, explanations of the purpose and summary of the project, advice from past exchange students, and details on preparations including procedures for the trip. The second orientation was held on July 21 (Sat), where we practiced our English conversational skills and made a final confirmation of the performance we would give at our destination. The 4 students opened up to each other, talking to each other about what they would bring and how they should mentally prepare themselves for the trip. At this point, I felt we were well prepared for our trip.
On July 25 (Wed), we made a courtesy call to Nagoya City Hall, receiving encouraging words from Deputy Mayor Sumida, the International Relations Division, and the Board of Education. Afterwards, we visited the American Consulate. After having received advice from people in various positions, the students themselves expressed their enthusiasm, and it certainly appeared that they had taken up the responsibility and challenge of participating in this exchange project as high school student representatives of the City of Nagoya.

Arrival in Los Angeles and Homestay

We arrived at Los Angeles via Narita on the afternoon of August 9 (Thu). At the airport, the host families gave us a great welcome, meeting us with

posters and balloons. We were touched by the warm welcome, and released from the tension we had been feeling up to that moment.
In the 2 weeks that followed, the time the students spent at the host families' homes became invaluable experiences for them. The host families were of Mexican, Chinese, and other various origins, and even in the American homes, different languages were used and different kinds of food were eaten, allowing the students to truly experience the "melting pot" of American culture. Almost every day, they would wake up at 7:30 to go to school with a student in the host family, and when school ended at 4, they would enjoy the after-school hours with many other students, experiencing life as normal high school students in America. It also seems that at their homes, they were often impressed with the discipline of American high school students, by seeing them do such things as staying up all night to do their homework. Each host family accepted the students from Nagoya as members of their families, for which I am most grateful.

Visit to Los Angeles City Hall and City Council

On August 10 (Fri), the day after our arrival, we visited Los Angeles City Hall and City Council, which could be said to have been one of the main duties of our delegation. After passing through security, we met Nagoya Mayor Kawamura and Los Angeles City Councilman LaBonge talking at the entrance of the City Hall, and Councilman LaBonge then led us to his room. Afterwards, we looked around the inside of City Hall, and even got to observe the City Council at work.
At the City Council, Mayor Kawamura gave a shout-out to the students during his lecture, and even gave them the opportunity to come up to the podium together. Afterwards, the students were also blessed with an opportunity to have a commemorative photo taken together. This was even published in a local newspaper in Nagoya, and was an extremely humbling experience for the students.

The Nisei Week Parade

On August 11 (Sun), the Nisei Week Japanese Festival was held in Little Tokyo, and the students also joined in on the festivities, wearing yukatas. When we were observing the pictures by Nagoya elementary and junior high schools at the Sakura Children's Exhibition preceding the parade, we again saw Mayor Kawamura, this time taking a tour. At the ceremony afterwards,

we sang together with the Mayor unexpectedly, and took part in an exchange event together with local residents. At night, we participated in the parade, riding around in a firetruck all around Little Tokyo, amidst the hordes of onlookers. During the parade, the students were requested in an interview to sing a song, and were met with applause from onlookers on the street when they sang "Moe Yo Dragons," the theme song for Nagoya's professional baseball team. The Nisei Week Japanese Festival is a Japanese-American festival held every year at this time, and I think the students were able to experience the Japanese culture taking root in America.

Experience at Downtown Magnet High School

During the students' 2-week stay in Los Angeles, I think their most memorable and valuable experience to them was attending a local school. The school, the Downtown Magnet High School, was the school attended by the host family students and the chaperone that led Los Angeles students to Nagoya the year before, and gave the students from Nagoya a very warm welcome. Thanks to the kindness of the school, the students were able to participate in classes in a variety of subjects, including mathematics, politics, and psychology. Also, in the U.S. this was a time when new students were entering, so during lunch, there was a welcome party for new transfer students planned by "Leadership" (members of the student association), and the students from Nagoya participated as well. The students from Nagoya will never be able to forget the memories they formed with the local high school students through such things as donut-eating contests and dances.
After class on August 17 (Fri), a Cultural Exchange Potluck Party was thrown for the exchange students. This event also had "Leadership" taking a central role in the preparation and planning, and was an incredibly fun party. Students studying Japanese at nearby high schools also joined, and close to 50 total people gathered together, bringing food to liven up the party. The students were also able to take part in cultural exchange, with Mr. Perry from the Los Angeles Delegation showing photos of when he visited Nagoya in 2011 and with the students from Nagoya presenting the "Nagoya Maruhachi Song" that they had practiced beforehand. We were really touched when after the students introduced Nagoya's Harumachi logo, all participants formed a circle and danced together with smiling faces.

University and Museum Visits

On August 14 (Tue), we visited a fashion and design institute called the Fashion Institute of Design and Merchandise (FIDM). Partly because 3 of the 4 exchange students were female, the exchange group gazed at the design of clothing and furniture compiled by the FIDM with great interest. On August 16 (Thu) after the students were out of class, we visited the Japanese-American National Museum. This was an opportunity for us to learn about the history of Japanese immigration to the United States, the life of Japanese-Americans during the war, and the many trials Japanese-Americans have overcome to reach the present, and it was also an opportunity for us to think deeply about the meaning of the Nisei Week Japanese Festival that we participated in. On August 20 (Mon), we visited the University of Southern California (USC). We observed the extraordinarily spacious campus, the fantastic facilities, and the first-class education, and there seemed to be a few exchange students from our party who dreamed of studying abroad there.

The Barbecue Party and Looking Around the City

During our stay in Los Angeles, we also had the opportunity to experience some typical American pleasures. On August 11 (Sat), a barbecue party was held at LANSCA member Peter Langenberg's house. There was a pool at the house, and so we experienced one of America's elegant ways of spending time by eating while playing in the water. On the afternoon of August 10 (Fri), we saw Hollywood Boulevard and saw a movie, and on August 13 (Mon), we visited Universal Studios. In this way, we were able to get a feel for the force of American entertainment, the grand scale of everything, and the American national character that is centered on enjoying everything wholeheartedly. On August 15 (Wed), we visited the Los Angeles Zoo and Griffith Park Observatory, where we were able to enjoy the natural environment of Los Angeles and a great view of the city.

Farewell Party and Return to Japan

On August 21 (Tue), the final day of our stay, a farewell party was thrown for us at night after classes were over. However, a problem occurred when the French restaurant we had reservations to had a partial power outage. Not only would the restaurant's lights not turn on, but the prepared electronic machinery also wouldn't work, so for a second, we were completely lost as to what we should do. However, thanks to the quick thinking of one of the

participants, we somehow got the computer and projector to work using the electrical power of a car, so the party was able to continue. It was dark inside the restaurant, but using a few candles, we were able to create a very interesting atmosphere. The array of memorable pictures shown amidst the darkness induced great excitement in the participants. Despite the unexpected trouble, I feel that due to the positive thinking that everyone should do their best to enjoy the candle party, we learned of the strength of Western people and the broadmindedness so lacking in the Japanese. Even amidst the darkness, the students presented the "Nagoya Maruhachi Song" and even the LANSCA members gave a ukulele performance dressed in Nagoya Matsuri happi, so that this was certainly a party representing friendship between Nagoya and Los Angeles. At the end, the students presented a message toward their host students one by one, and each student couldn't help but shed a few tears. From this sight, it was clear to all participants just how deep the bonds formed over the last 2 weeks were.
We were scheduled to leave for Japan on August 22 (Wed), but the flight from Los Angeles was delayed for 5 hours, so we ended up spending the night at Narita for a night, and returning to Nagoya 1 day late on the 24th (Fri). It was certainly an exercise in learning about the necessity of responding flexibly and calmly to unanticipated situations like the unexpected trouble that occurred at the farewell party.

Final Words

The 2 weeks described above was a truly fulfilling time where every day and every hour was filled with discoveries, lessons, and excitement. Protected by a great and friendly sister city relationship, the high school students were able to build friendships and deepen exchange with each other despite differences in nationality and language. This experience, in which both sides were able to expand their perspectives, will surely lead to a better future for each student, and will surely be of use in international society. I hope that in the future, these types of exchange projects can develop further, and that more high school students can grow through these types of experiences.
In closing, allow me to express my extreme gratitude to the support and cooperation of everyone involved in this project, including the host families, LANSCA, the Nagoya City International Relations Division, and the Board of Education. It is thanks to these groups that this exchange project was able to end in success.

■第 26 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業について

名古屋市はロサンゼルス市と昭和 34 年（1959 年）に姉妹都市提携を結びましたが、その一環として昭和 35 年（1960 年）から両都市が交互に高校生を派遣し、両都市の友好、親善を深めてきました。

派遣の年となる本年（2012 年）は、8 月 9 日（木）～24 日（金）までの約 2 週間、ホームスティや現地の学校見学などを通して、市民レベルの交流を深めました。

現地での受入については、ボランティア団体である「ロサンゼルス名古屋姉妹都市委員会（LANSCA）」の協力により実施されました。ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学、南カリフォルニア大学見学、二世週祭パレードへの名古屋市代表としての参加のほか、ロサンゼルス市役所への表敬訪問や市内視察などを行うとともに、多くの時間をホストファミリーと過ごしました。

LANSCA とホストファミリーをはじめとする多くの方々のご協力を得て、2 週間という短い期間でありましたが、充実した派遣事業を行うことができました。

■The 26th Los Angeles High School Student Exchange Project

The City of Nagoya and the City of Los Angeles began a sister city affiliation in 1959. As one part of this relationship, the two cities have alternately dispatched high school students to each other's cities since 1960, deepening friendship and goodwill between Nagoya and Los Angeles.
This year (2012), in the approx. two weeks from August 9 (Thu) to August 24 (Fri), high school students from Nagoya deepened exchange at the resident level by participating in such activities as homestays and visits to a local high school.

The reception in Los Angeles of the students from Nagoya was coordinated by the volunteer organization LANSCA (Los Angeles-Nagoya Sister City Affiliation).Other than attending the Downtown Magnet High School, visiting the University of Southern California, and participating in the Nisei Week Festival Parade as part of the Nagoya City Delegation, the students also participated in a courtesy call to Los Angeles City Hall, toured the city, and spent a lot of time with their host families.

With the cooperation of a great many people including LANSCA and the host families, we were able to have a fulfilling exchange project this year, despite the fact that 2 weeks seems like such a short time.

■第 26 回ロサンゼルス交歓高校生・引率者

The 26th Los Angeles High School Exchange Students and Chaperone

阿部　まゆ子（あべ　まゆこ）
Ms. Mayuko Abe
愛知淑徳高等学校 1 年
Aichi Shukutoku Senior High School 1st year

岡田　七海（おかだ　ななみ）
Ms. Nanami Okada
名古屋市立名東高等学校 1 年
Nagoya City Meito Senior High School 1st year

津田　翔也（つだ　しょうや）
Mr. Shoya Tsuda
名古屋市立名東高等学校 2 年
Nagoya City Meito Senior High School 2nd year

長濱　祥子（ながはま　しょうこ）
Ms. Shoko Nagahama
名古屋市立菊里高等学校 1 年
Nagoya City Kikuzato Senior High School 1st year

引率者：伊藤　聡子（いとう　さとこ）
Chaperone: Ms. Satoko Ito
名古屋市立名東高等学校教諭
Teacher, Nagoya City Meito Senior High School

■ホストファミリーと交歓高校生との組み合わせ

Pairings of Host Families and Exchange Students

交歓高校生 Exchange Student	ホストファミリー Host Family
阿部　まゆ子 Ms. Mayuko Abe	パール・クワン Ms. Pearl Kuang
岡田　七海 Ms. Nanami Okada	アマンダ・ラム Ms. Amanda Lam
津田　翔也 Mr. Shoya Tsuda	イスマエル・ヴェーナ・ジュニア Mr. Ismael Vayna, Jr.
長濱　祥子 Ms. Shoko Nagahama	タルトン・クラーツ Mr. Dalton Kraatz
引率者：伊藤　聡子 Chaperone: Ms. Satoko Ito	ディクソン・ペリー Mr. Dickson Perey

■滞在日程

第２６回ロサンゼルス交歓高校生派遣日程

日付	内容	滞在
8月9日　（木）	セントレア発 15:05 →成田経由→ ロサンゼルス着 11:38 空港まで迎えに来たホストファミリーとともにホスト先へ	ホストファミリー宅
8月10日　（金）	ロサンゼルス市役所・市議会表敬訪問 ハリウッドハイランド、The El Captain Theatre演劇	ホストファミリー宅
8月11日　（土）	ランスカ委員宅にてバーベキュー&プールパーティ	ホストファミリー宅
8月12日　（日）	リトル東京見学、LA Nagoya Sakura Children's Exhibition見学 二世週祭パレード参加	ホストファミリー宅
8月13日　（月）	ダウンタウン・マグネット・ハイスクール訪問 ユニバーサルスタジオ	ホストファミリー宅
8月14日　（火）	ダウンタウン・マグネット・ハイスクール訪問 FIDM見学※、The Groveでショッピング	ホストファミリー宅
8月15日　（水）	ダウンタウン・マグネット・ハイスクール訪問 LA動物園、Griffith Park Observatory、プラネタリウム	ホストファミリー宅
8月16日　（木）	ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学 全米日系人博物館	ホストファミリー宅
8月17日　（金）	ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学 Cultural Exchange Potluck Party参加	ホストファミリー宅
8月18日　（土）	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリー宅
8月19日　（日）	ホストファミリーと過ごす 3家族は一緒にサンタモニカのビーチへ	ホストファミリー宅
8月20日　（月）	ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学 高校の郊外活動でUSCを訪問	ホストファミリー宅
8月21日　（火）	ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学 引率者はロサンゼルス教育委員会を訪問 さよならパーティ＠Taix French Restaurant	ホストファミリー宅
8月22日　（水）	ロサンゼルス発 13:14予定であったが、 航空機の不具合のため、18:00発	機内泊
8月23日　（木）	成田着　21:11 成田泊	成田泊
8月24日　（金）	セントレア着 11:00	

※ﾌｧｯｼｮﾝ・ｲﾝｽﾃｨﾁｭｰﾄ・ｵﾌﾞ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ・ｱﾝﾄﾞ・ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ（ﾌｧｯｼｮﾝとﾃﾞｻﾞｲﾝの私立２年制ｶﾚｯｼﾞ）

■ Itinerary

26th Los Angeles High School Exchange Project Schedule

Date	Schedule	Stay
Aug 9th Thu	Depart Centrair at 15:05 →Via Narita→ Arrive in LA 11:38 Go to host family houses with host families who picked us up at the airport	Host Family's House
Aug 10th Fri	Courtesy Call to Los Angeles City Hall and City Council The Hollywood and Highland Center, The El Captain Theatre	Host Family's House
Aug 11th Sat	Barbecue and Pool Party at LANSCA Member's house	Host Family's House
Aug 12th Sun	See Little Tokyo and the LA Nagoya Sakura Children's Exhibition Participate in Nisei Week Parade	Host Family's House
Aug 13th Mon	Visit Downtown Magnet High School Universal Studios	Host Family's House
Aug 14th Tue	Visit Downtown Magnet High School Visit FIDM※, Go shopping at The Grove	Host Family's House
Aug 15th Wed	Visit Downtown Magnet High School Los Angeles Zoo、Griffith Park Observatory、Planetarium	Host Family's House
Aug 16th Thu	Attend Downtown Magnet High School Japanese-American National Museum	Host Family's House
Aug 17th Fri	Attend Downtown Magnet High School Participate in Cultural Exchange Potluck Party	Host Family's House
Aug 18th Sat	Spend time with host family	Host Family's House
Aug 19th Sun	Spend time with host family 3 families go to Santa Monica Beach together	Host Family's House
Aug 20th Mon	Attend Downtown Magnet High School Visit USC for high school field trip	Host Family's House
Aug 21st Tue	Attend Downtown Magnet High School Chaperone visits Los Angeles Board of Education Farewell Party at Taix French Restaurant	Host Family's House
Aug 22nd Wed	Flight from LA scheduled to depart at 13:14, but due to aircraft troubles,departs at 18:00.	Inside the Airplane
Aug 23rd Thu	Arrival at Narita 21:11 Stay the night at Narita	At Narita
Aug 24th Fri	Arrival at Centrair 11:00	

※Fashion Institute of Design and Merchandise (2 year private college of fashion and design)

■事前研修会　Preliminary Orientation

第１回

日時：平成２４年７月８日（日）　１０：００～１３：００

場所：安保ホール 4 階 401 号室

内容：

第１部　10:00～12:10

（１）あいさつ

（２）派遣生・引率教員自己紹介

（３）当事業の趣旨、概要、日程等の説明（市長室国際交流課）

（４）前回の派遣生徒からの助言

＜休憩＞

（５）旅行手続き等説明、ホームスティの心構え、生活上の注意等（旅行社）

（６）出発までのスケジュールについて

（７）質疑応答

＜休憩＞

第 2 部　12:20～13:00

（１）自主学習テーマ、サヨナラパーティーでの出し物、スピーチ等の役割分担の検討（引率教員）

第２回

日時：平成２４年７月２１日（土）　１４：００～１７：００

場所：安保ホール 4 階 403 号室

内容：

第１部　14:00～16:00

英会話

＜休憩＞

第 2 部　16:10～17:00

(1) 旅行手続き等最終案内（旅行社）

(2) 記念品の配布、割り振り（旅行社、国際交流課）

(3) 自主学習テーマ、サヨナラパーティーでの出し物、スピーチ等の役割分担の決定（引率教員）

■　名古屋市役所表敬訪問

Courtesy Call to Nagoya City Hall

１　日　時　平成２４年７月２５日（水）１０：００～１０：２０

２　場　所　市役所本庁舎４階　貴賓室

３　対応者　名古屋市副市長　住田代一
　　名古屋市市長室長　葛迫憲治
　　市長室国際交流課長　宮島利光
　　教育委員会指導室指導主事　野中均

■思い出の写真　Memorable Photos

★ロサンゼルス空港での温かい歓迎★

★ロサンゼルス市役所表敬訪問★

市役所を背に

トム・ラボンジ議員室にて

市議会を傍聴

認定書授与

★二世週パレード★

Sakura Children's Exhibition にて

セレモニーで名古屋市長と

消防車に乗ることに

消防車でパレード

リトルトーキョーの沿道の様子

パレード後消防士の方と

★体験入学★

ﾀﾞｳﾝﾀｳﾝ・ﾏｸﾞﾈｯﾄ・ﾊｲｽｸｰﾙの学年集会

昼休みに新入生歓迎のゲーム

Cultural Exchange Party ポスター制作

「名古屋まるはち音頭」を説明

ロスの生徒と浴衣でセッション

最後に全員で記念撮影

★その他訪問先★

みんなでファーストフード

ランスカ委員宅にてプールパーティー

ユニバーサルスタジオ

ロサンゼルス動物園

お世話になったLANSCAの方と

ＦＩＤＭ見学

ＵＳＣ見学

全米日系人博物館

さよならパーティー

涙のスピーチの後の撮影

空港にてホストファミリーとお別れ

１日遅れて名古屋に到着

■帰国報告会　　Return Report

１　日　時　平成２４年８月３０日（木）１１：００～１１：３０

２　場　所　市役所本庁舎４階　貴賓室

３　対応者　市長室国際交流課長　宮島利光
　　教育委員会指導室指導主事　野中均
　　市長室国際交流課交流渉外係長　鈴木淳

■　自主研究テーマについて

Individual Research Themes:

Japanese Recognition

愛知淑徳高等学校１年　阿部まゆ子

1.　はじめに

日本とアメリカは、お互いを友好国として経済・文化などのいろいろな面で影響し合っている。私は、日本がアメリカでどれだけ知られているのか、日本の認知度について興味が沸き、今回の交歓留学の機会を利用して現地での実態を調べてみた。

また私は、アメリカの文化にとても興味があり、お互いのことをより多く学び、もっと友好的な文化交流ができるのではないかと考えた。

そこで、日本の認知度について問うアンケートを作り、ロサンゼルスの訪問先の高校で出会った、沢山の友達に協力してもらい回答を得ることができた。以下はその時に使用したアンケートだ。

また、街で見かけた「日本文化」、「日本的なもの」より、アメリカにおける日本文化の浸透度を考察してみた。

Do you know about Japan?

Hello, everyone!!!
My name is Mayuko Abe :)
I'm from Nagoya Japan.
How long do you know it about Japan?
I want to ask you some question.

(1) Speaking of Japan, what can you say it in a word?
(2) What are the sports you know of Japan?
(3) What do you think about Japanese people?
(4) What is your favorite Japanese food?
(5) What are Japanese comics that you know?
(6) Please write Japanese singers whom you know.
(7) Do you want to know about Japan?
(8) Please answer 3 cities that you know in Japan.
(9) Do you have any Japanese friends?

2.　アンケート結果（Asking for American high school students）

(1)　日本といえば・・・

質問の意味が分かってもらえなかった人もいたので、さまざまな回答があった。

「買い物」「興味深い」「アニメ」「テクノジカル」「アジア人」「寿司」「清潔」etc…

これらの言葉は、アメリカ人の日本観を知るための手掛かりになりそうだ。

1)　清潔好き

日本では国内に温泉があり、アメリカでは温泉というものがない。家にバスタブがあるがめったに使わずシャワーで身体を洗っている。

一方、たいていの日本人は毎日入浴し、浴槽に入る前に体を洗い、リラックスの意味で浴槽に浸かる。しかし、アメリカ人にはそれが奇異に映るらしい。彼らにしてみると浴槽に浸かるのは、身体を洗うためではないのか、ということらしい。

アメリカの学校の教室には、お菓子の袋などのごみが散乱し、ショッピングモールでは、空のジュースのカップが服の陳列の横に並べて捨ててあった。

校内では、身近にゴミ箱がなかったので、私は仕方なく出たゴミをポケットに入れた時、ホストシスターに「ここに落としても大丈夫だよ。」と言われたが、「持って帰る。」と言うと、「日本人だね。」と返ってきた。

アメリカ人から見ると、日本人は清潔好きに見えるのだ。

（ただし、校内や公共の場所を清掃する仕事をする人の仕事を奪ってはいけないという感覚もあるらしい）

2)　漫画好き

今や「Manga」は国際的な共通語となり、世界中の書店で見られるようになってきた。「アメリカ人が５人集まると、競争が始まる。イギリス人が５人集まると、議論が始まる。ドイツ人が５人集まると、ビールで乾杯。日本人が５人集まると漫画の回し読みが始まる」というジョークがある。ちなみに、前述のジョークは、かつて日本人のくだりは、「日本人が５人集まると、会社の会議が始まる」といった内容のものだったのに、世界的な「日本の漫画ブーム」により、ジョークのオチも変化したそうだ。

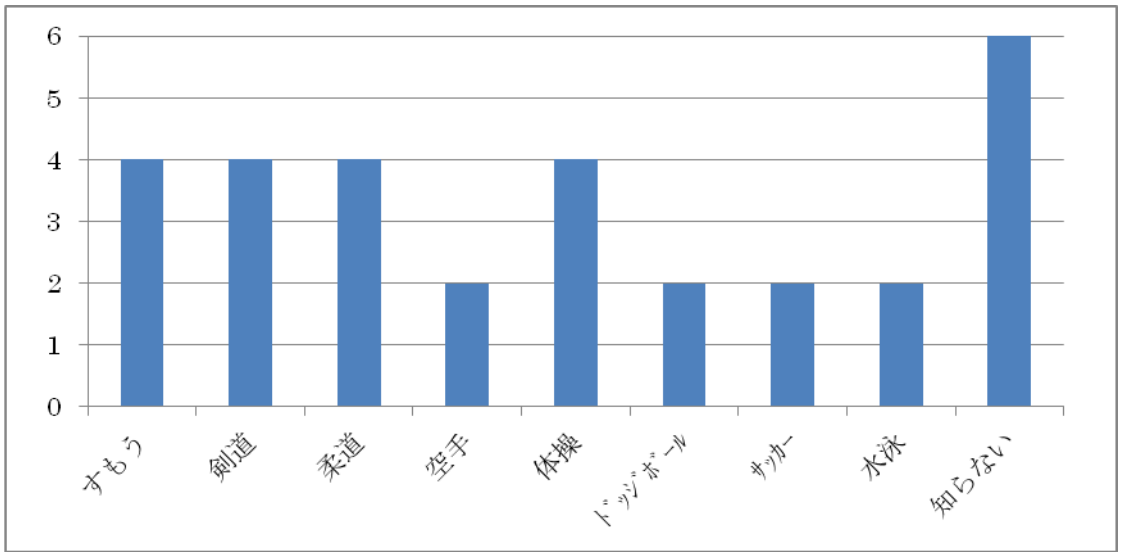
また、コスプレ大会などの漫画に関するイベントも開催されており、（詳しくは(5)　漫画、アニメについて、に示す。）もはや Japan = Manga といった図式が成り立っているほどだ。

3)　テクノジカル

Toyota や Honda に代表される自動車やバイク、Sony や Panasonic に代表される電化製品などの High Quality な工業製品のイメージは、既にアメリカにおい

ては定着しているようだが、近年韓国や中国製品も進出が目覚ましい。

(2)　日本のスポーツといえば…



私の予想では、日本の国技である「すもう」、「柔道」、ワールドベースボールクラッシクで優勝していることやイチロー選手などの活躍により「野球」が票を集めると思っていたが、「野球」はやはりアメリカのスポーツということなのか 0 票だった。

サッカーという回答があったが、これは女子ワールドカップの日本対アメリカの決勝戦の死闘により認知度が上がったと考えられる。

また、「体操」、「水泳」に票が入っているが、これはオリンピックでの日本選手の活躍があったからだと考えられる。

一方、ドッジボールという回答は予想外だった。日本で人気のあるスポーツのうちの一つであることは間違いなく、小学生時代、よく休み時間にクラスの仲間で戦ったし、ドッジボール大会も毎年学区で行われている。

調べてみると、その発祥はイギリスだが、ドッジボールが日本で有名だと知っているアメリカンがいることに私は驚いた。

しかし残念だったのは、アンケートの結果、「知らない」という回答が一番多かったことだ。

やはりアメリカでは、「野球」、「アメリカンフットボール」、「バスケットボール」が最も人気があり、「野球」を除きこれらのスポーツは、日本人がなかなか活躍できるスポーツではないことと、「日本 ＝ スポーツ」というよりは、「日本 ＝ アニメ」、「日本 ＝ 工業製品」のイメージが強いことが原因であると思う。

(3)　日本人はどう思われているのか？

回答には、

「いい人」、「かわいい」、「かっこいい」、「フレンドリー」、「人を敬う気持ちを持っている」、「自尊心がある」、「早口」、「コギャル」、「賢い」、「すごい」（重複あり）

という答えがあがった。

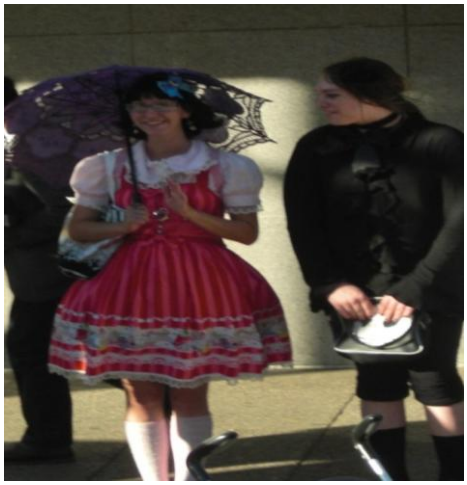
東日本大震災の際に、大混乱にもかかわらず略奪などもなく秩序を守り、整然としていた日本人の様子はアメリカでも報道され、アメリカ人に驚きや尊敬の念を与えることになったようだ。

また、日本で独自に生まれたファッション（ロリータやコギャル)、キティーちゃんなどのキャラクターも、アメリカの若者に支持されている。この影響より、「かわいい」、「かっこいい」、「コギャル」などの印象を持っている人が多いのではないかと思う。

（特に、「かわいい」は、アメリカでも言葉として通じることが多い。）

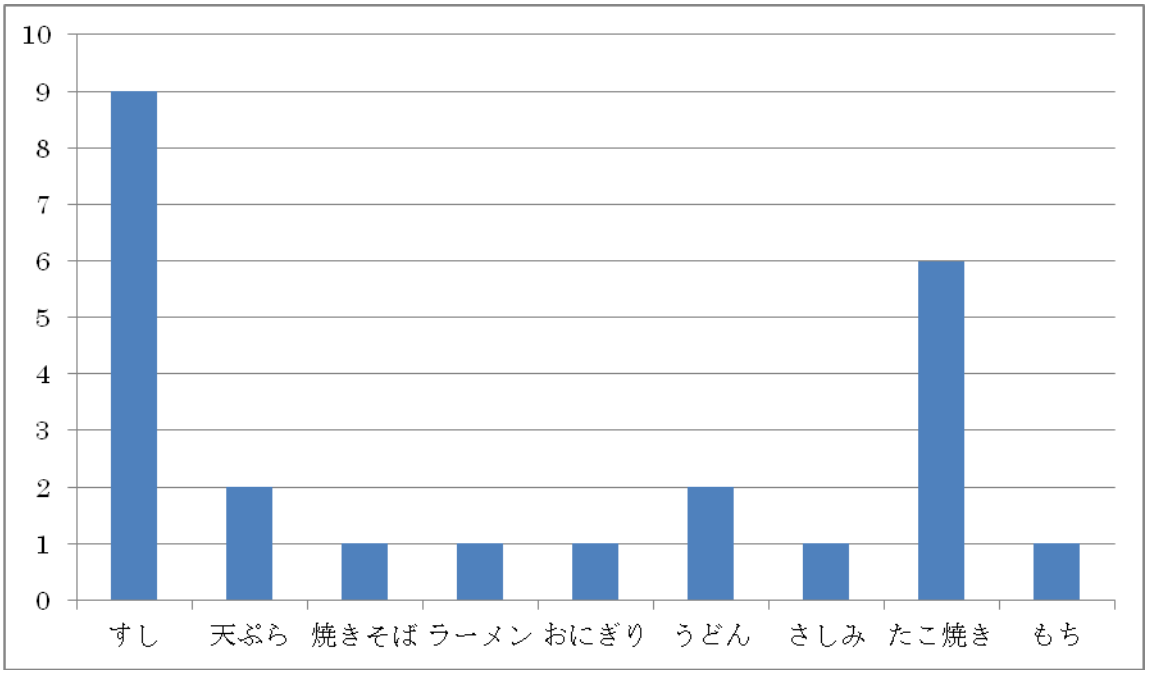
Little Tokyo でロリータを着ている人も見かけた。

一方、一昔前では、「日本人＝働き者（働き過ぎ)」と言う評判があったが、今回のアンケートではそのような答えは無かった。



ロリータを着ているアメリカン

(4)　好きな日本食は？



予想通り、やはり「すし」が多い。私もアメリカで沢山すしをいただいたが、本当にどれも美味しかった。基本的にネタは、まぐろとサーモンが多く日本のものと味はほとんど変わらなかった。

一方、「たこ焼き」がこれ程アメリカで有名だとは思ってもいなかった。ロサンゼルス市街にある「ＳＨＩＮＳＥＮＧＵＭＩ」という日本料理店は、ホストシスターによると、本当に美味しくて、毎日大行列ができるほど、アメリカではとても人気らしい。

また、世界中で今注目されている日本食は、日本料理の特徴である、素材の新鮮さ、健康的で栄養バランスが良いところが今アメリカで評価されている。

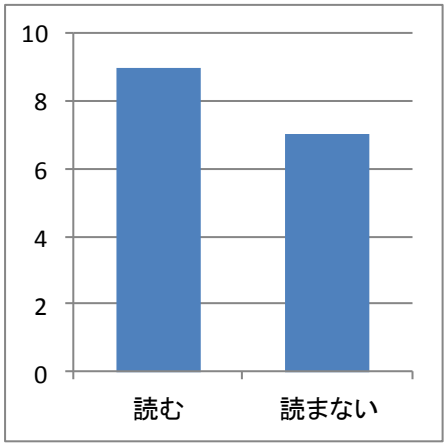
寿司は有名だということは知っていたが、こんなにも沢山の種類の日本料理が海外でたしなまれていることに驚いたし、なんだか嬉しかった。

ただ、アメリカの日本食には「これ日本食？」と思うほどアレンジされたものも多い。(スパムの握りずし、カルフォルニアロールなど)

すし

アメリカ風やきとり

(5)　漫画、アニメについて



グラフを見ても分かるように、漫画を読んでいる人の方が多い。 日本の漫画はアメリカでは大変人気で、アンケート結果によると、少年 JUMP を読んでいる人が多く、「ナルト」、「one piece」、「ブリーチ」、「銀魂」の回答が多かった。女の子向けの少女漫画も人気だった。例えば、「君に届け」、「ビューティーポップ」、「高校デビュー」など。これらは日本でも有名なものばかりだ。

私が体験入学した学校にはアニメクラブがあり、そこでは「こんにちは」「カンパ～イ」や「ありがとう」そして「将軍」といった日本語も聞こえてきた。最も面白かったのは、クラブ内のほとんどの

人が「すいません」という言葉を知っていたことだ。
　アニメクラブ主催のパーティーがあり、スクリーンには、日本のアニメが上映され、沢山のイラストも飾ってあり、日本に興味を持っている人が多く、とても親近感が沸いた。日本人の私よりも日本について詳しいのではないか、と思ったほどだった。
　また、コスプレショーは、日本の漫画のキャラクターがほとんどで、とても盛り上がっていたのが印象的だった。

コスプレショーにて@little Tokyo

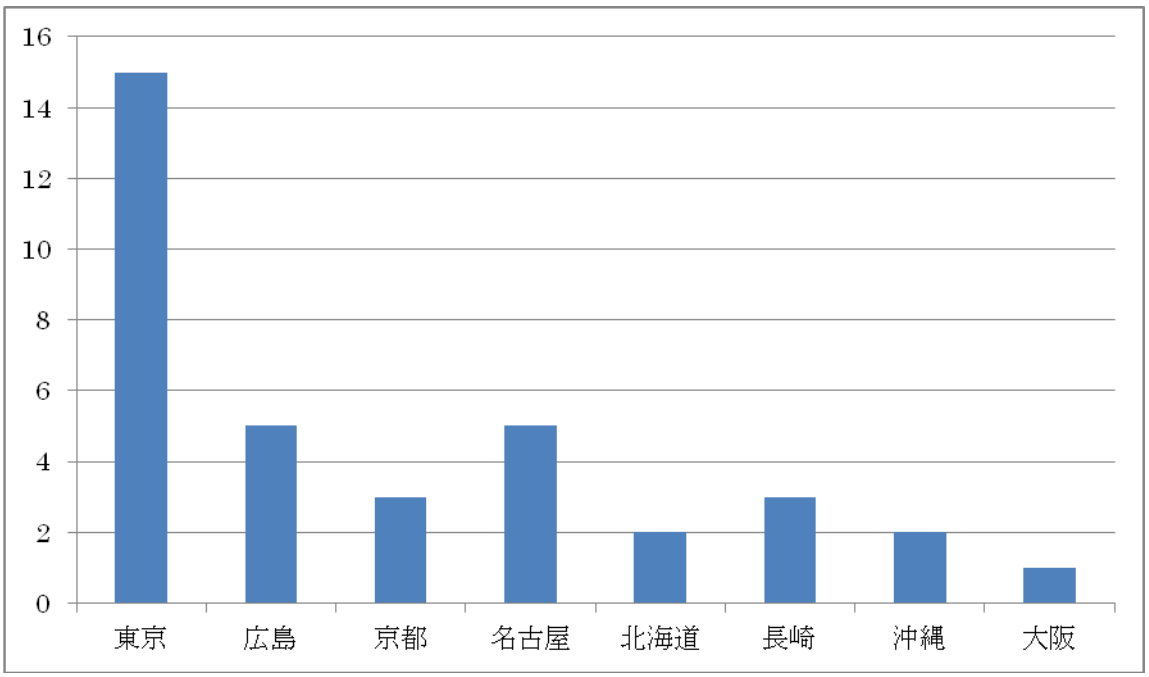
(6)　日本人歌手認知度
　「Ｊ－ｐｏｐで知っている歌手いますか？」という質問結果
NO.　1　　知らない…
NO.　2　　AKB48 嵐　宇多田ヒカル　ＹＵＩ　News　Kat-Tun
NO.　3　　浜崎あゆみ　初音ミク　赤西仁　SCANDAL

という結果で、やはり「知らない」という回答が目立った。
　「幼い頃は J-pop をよく聴いていたが、今はアニソンを聴いている」という回答もあった。中には K-pop バンドを答えている人も数人いた。
　けれども私が驚いたのは、嵐、KAT-TUN や NEWS などのジャニーズのファンがいたことだ。アメリカでも人気らしい。
　「アニメソング」という回答もあり、やはり日本のアニメはとても有名だということが分かった。
　結論を率直に言うと、J-pop より k-pop の方がアメリカの高校生の間では人気が高い。あまり J-pop を聴く人はいないようだ。

(7)　日本について興味を持っているのか？
　「もちろん」「はい。いつも」
今回協力してくれた友達（30 名）から興味があるとの回答を得た。
　彼らにとっての興味とは何か、明確に聞き出せなかったが、やはり「日本食」、

「アニメ」に対して強い関心があると感じられた。
　一方、興味があると言いながら、「日本は、大統領制なの？」と質問されたことより、(アンケートの回答者が高校生と言うこともあるが)日本の政治にはあまり興味がないのではないかと感じられた。

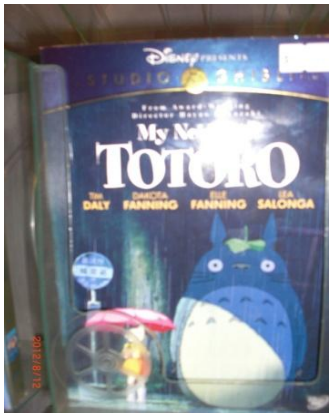
(8)日本の都市認知度



予想では、東京が１位、名古屋または京都が２位と思っていたが、京都より原爆被災地である長崎・広島の認知度が高い結果となった。
　彼らが、良い意味で原爆の悲劇について興味を持ってくれていることは、とても良いことだと思ったし、今後も持ち続けて欲しいと思う。

(9)　日本人の友達はいるのか？
　30 人中２人以外は、全員日本人の友達がいた。(当然私は除いて)
この質問に答えてくれたロサンゼルスの訪問先の高校には、日本人の男子留学生が一人在籍していたことより、このアンケート結果は、残念ながらあまり正確ではない。

3.　アメリカで見つけた日本



ジブリの映画は、アメリカでも有名で、「トトロ」以外にも「魔女の宅急便」や「ポニョ」や「千と千尋の神隠し」などのＤＶＤも販売していた。
　日本で有名なシュークリーム屋「ビアード　パパ」

がアメリカでも人気があり、私の行ったどのショッピングモールにも入っていて、味も大きさも日本のシュークリームと同じだった。私のホストシスターはそれが日本製であることは知っていたが、他の友達は知らなかった。私もアメリカに訪問して初めて日本製だと知った。

日本のスナック類は、パッケージが英語表記になっているポッキーが売られており、アメリカの方が価格は高かった。

その他、食料品として「醤油」、「豆腐」、「味噌」などは普通に陳列販売されており、日本食文化の浸透度の高さをここでも認識できた。

４．おわりに

私は外国人が日本人のことをどう思っているのか以前から気になっていたが、この調査の結果から、アメリカ人は日本人のことを好意的に思ってくれていることが分かり、とても嬉しかった。けれども、日本のことをもっと認知してもらいたい、と今回のロサンゼルスの滞在を通じて改めて感じた。グローバル社会の今、これからも異文化交流を積極的に行い、お互いの良さを確かめ合うことが必要だと思った。

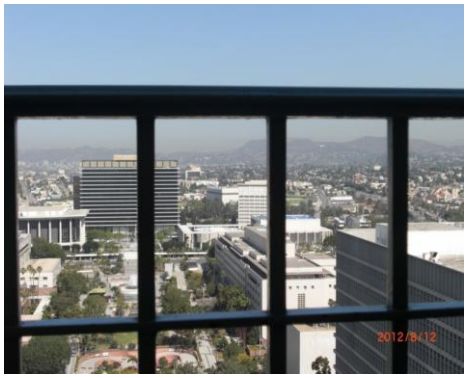
今回アンケートに快く協力してくれた約３０名の友達、そしてこの機会を与えてくださった人たちに感謝の気持ちを伝えたい。

１４日間のロサンゼルス

今回このロサンゼルス交歓高校生に申し込んだ第一の動機は、海外の友達を沢山作り、自分の意見や考え方などをともにシェアしたいと思ったからです。私のホストファミリーは中国人で、家では中国語を使っていました。はじめ、そのことに驚き、少し不安でした。けれどもホストシスターがいつも英語にトランスレートしてくれたので毎日楽しく過ごすことができ、あっという間に感じられた２週間でした。

● City Hall 訪問

ロサンゼルスの市役所に訪問しました。市議会では、パブリックコメントを傍聴し、その建物の最上階では、ロサンゼルスの街を一望することができました。



● 二世週パレード

Little Tokyo で開かれた二世週パレードでは、消防車に乗りながら参加しました。印象に残っていることは、パレードの最中に、あるテレビ局の司会者にマイクを向けられ、とっさに「燃えよドラゴンズ」を歌ったことです。

● ユニバーサル　スタジオ

日本のユニバーサルスタジオとハリウッドのものとはスケールが全く違いました。日本では苦情がでるような演出や乗り物の迫力には驚きました。私は断然ハリウッドのユニバーサルスタジオをお勧めします。

● Downtown magnets high school

体験入学ということで、授業も受けることができました。日本の授業風景とは異なり、どの生徒も積極的で発言が多かったです。お昼の時間には、生徒会中心に「ドーナツゲーム」やダンスが催されていました。日本の昼休みよりも賑やかだったし、友達は誰もがフレンドリーで、親切だったので、アメリカのスクールライフにすぐ溶け込むことができました。本当に良い機会でした。

● この 14 日間を振り返って

海外生活から、沢山学ぶべきことがありました。今すぐにでもロサンゼルスへ行って、友達に再会したいです。２週間あっという間に感じられました。これから語学力をもっと向上させ、世界中の人と異文化交流をしたいです。この研修は私にとって、一つの大きなチャンスでした。この経験を無駄にすることなく、将来につなげていきたいです。

School Life of Teenagers in L.A.

名古屋市立名東高等学校１年　岡田七海

私はこの２週間のＬ．Ａ.滞在中に現地の高校生が実際に通っているＤｏｗｎｔｏｗｎ　Ｍａｇｎｅｔｓ　Ｈｉｇｈ　Ｓｃｈｏｏｌに特例として通わさせていただき、さらに実際に行われている授業に参加させていただくという貴重な体験をさせてもらったので「SCHOOLLIFE of teenagers in L.A.」というテーマのもとで現地の高校生の学校生活と日本での学校生活との違いについて調べました。

●○服装○●

服装は日本の生徒みんなが統一している制服とは違いとても自由で個性的な服装でした。中にはメイクやアクセサリーをつけてきている子もいて、日本とは違う自由な雰囲気に驚かされました。

●○通学○●

私の場合はバスで通学していたのですが、その他に地下鉄やスクールバスを使う、自分の車で運転してくる（カリフォルニア州では１６歳半から１７歳半は仮免許取得可、ただし運転は保護者の同伴のみ）という手段などもあるようでした。バスは日本の「manaca」のような「tap」というカードにお金をチャージして利用していました。このカードは地下鉄でも使えるようで日本と同じシステムでした。バスや地下鉄の椅子は日本とは大違いでとても硬くて慣れない初めの頃は座り心地が悪かったです。

●○ランチ○●

ランチはなんと無料で朝食と昼食を配っていました。昼食は高学年の生徒たちのみ外に食べに行けるとか！学校にも日本の購買のようなところがありましたが、売っているのはカラフルな色のジュースやポテトチップス、ポテトチップス、ポテトチップス.....。やはり大きくて量が多いものや油っこいものをよく目にしました。その他にも日本のようにお弁当を家から持参している子もちらほらとみかけました。

（配布されているランチ）

（クラスがないため広いスペースの中みんなでランチを食べている様子）

授業はまず、自分で教科を選択するという時点から公平にみな同じ授業受ける日本とは違いました。日本のような時間割はなくひたすら毎日同じ授業を受けていました。わたしは下の３つの授業を３日間にわたり４時間目から６時間目まで毎日受けていたのですが、その他にも中国語や公民（政治)、生物、体育などの授業がありました。

４時間目	***心理学***	授業の初めにはプリントを中心に心理学についての知識を深めていましたが、ほとんどは生徒同士がディスカッションの様な感じでそれぞれの意見を言い合い議論をしていました。私は日本では先生が「質問はありますか？」とわざわざ聞いてくださってもシーン..... と静かになってしまう経験のほうが多いなと感じていたので、積極的に授業中にその場でお互いの意見を言い合いことはとても新鮮で堂々としているところに憧れました。
５時間目	***数学***	３つに分けられた内の一つのクラスの中でも難易度のレベルが２つに分れており難易度が低いグループでも大学レベルの問題を解いていて驚きました。しかし、難易度がもっと高いグループの人たちは教室には先生が１人しかいらっしゃられなかったので自分たちがもう受けてしまった授業を行っている時は難易度が低いグループの子達にわからないところを教えていたりしていいシステムだと思いました。
６時間目	***フランス語***	先生が用意してきたフランス語の映画や動画を見ながら、その中で発見した新出単語を一人一台与えられたコンピューターに入力していき、その単語のテストを時々行っていました。また、教科書の基本的な文字や数字の読み練習をしたりもしていました。。

―宿題―

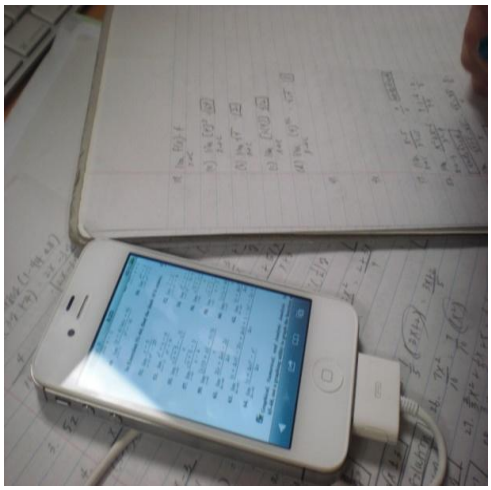
宿題の量は日本ほど部活動（アメリカではクラブ活動）に力をいれていないせいなのか、宿題の量がとても多かったです。ホストシスターの Amanda はわたしが朝方早くに起きてしまった時にまだ宿題をしていた..... なんてことはしょっちゅうあり、次の日になり「昨日は寝たの？」と私が聞くと「宿題が終わらなくてほとんど寝てないよ」と言っていていつも心配でした。

また、宿題がそれぞれの生徒の携帯やパソコンにメールを利用しおくられているのには本当に驚きました。宿題だけでなくその日のスケジュールなどもメールを利用して伝達していて、驚きました。

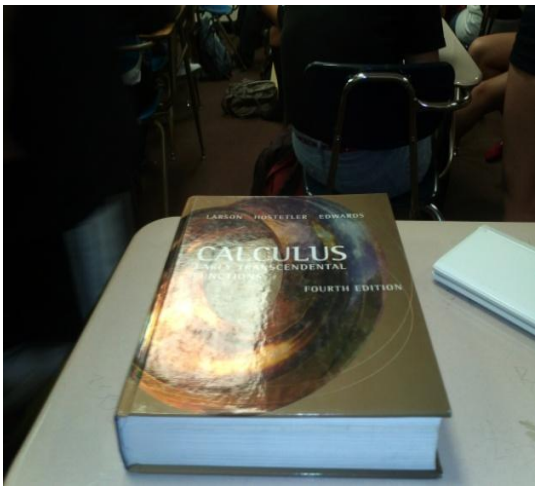
―教科書―

写真にもあるようにとっても分厚い教科書を使っていました。これを何年かけて終わらせるとおもいますか？.....

な、なんと、この太さをたったの１年で終わらせるとか.....。しかし、ここまで分厚い理由をロサンゼルスで生まれた日本人の生徒さんに聞いてみたところ、「日本には漢字があるから、きっと文章量を英語よりも少なくできて日本の教科書の方が薄いんだよ。」と言ってました。しかしさすがにこんなにも分厚い教科書を全部持ってくるのは大変なのでほとんどの授業では教科書を貸出していました。



（宿題の問題をメールで配布）



（１年分の教科書）

●○掃除○●

掃除は日本のように生徒たち自身が掃除場所を振り分けて掃除するのではなく清掃員の方々がいらっしゃってその人達がしていました。しかし、アメリカだけではなく世界の国では身分制度が根強く残り自分たちは掃除をしないという国の方が多いようです。

●○行事○●

日本では１年にわたって球技大会、体育大会、文化祭、音楽会などいろいろな行事を行いますがアメリカでは卒業時のプロム（パーティー）だけなどあまり学校ならではの行事はないのだそうです.....。しかし Downtown Magnets High School は生徒会がとても活発な学校だったので、写真にもあるようにドーナツ取りゲームやダンスコンテストなど日本にはない行事で盛り上がりとても貴重な体験ができたのしかったです。

●○考察○●

現地の高校に通い一番強く違いを感じたのはアメリカでは先生と生徒の会話がとても多く、授業が対話形式に進んでいったことです。日本では先生が質問をすると、日本人はつい周りの目を気にしてしまう癖があり、また正解でないと恥をかいてしまうという考えから静かになってしまうケースが多いと思います。だから日本人は学校に限らずはっきり言わないのでないのでしょうか。日本語の日常会話は、「かもしれない、～と思うが、多分」でいっぱいな気がします。“No”とはっきり言わないのであいまいさを招きやすい。また日本人はあまり意見を言わない。アメリカで意見を聞いたら、はっきり言いますが、日本人は、はっきり yes, no を言わないし、意見を出しません。一概には言えないのですが、それはたぶんお互いが謙遜し合う文化からきているのだろうとわたしは考えます。さらに、アメリカ人が yes, no をはっきり言うのにはアメリカの教育モットーである「民主主義を守る国民を作ること」（「民主主義」はアメリカ合衆国のモットー。アメリカ建国直後から、「国民が無知なら民主主義は滅びる」と考え、国民を教育することが提案された。最初の提案には成人も含まれていたが、税金を使う公教育では、子供の教育が大きなテーマとなった。）より小さなころから決して感情的な主張にまどわされたりしないように、しっかりと自分の意見を伝えられるように教育されていることからだと思います。

また、もうひとつ、日本の平等な教育方針ではなく、自分たちで授業を選択するというアメリカの教育方針から、日本の教育は戦後の平等に教育を受けるということが後をひきこの様な教育の違いができていると改めて感じたことです。

●○最後に.....　○●

この交歓留学プログラムに参加して、わたしたちを受け入れてくれたロサンゼルスの高校生４人と日本人メンバー４人での８人で本当に仲良くなることができ、本当に良い友達をつくることができました。毎日たくさんの発見と出会い、私にとっては本当に素敵な思い出となりました。高校でできた友達とは facebook などのソーシャルメディアを通して今でも連絡を取り合っています。なので、これからも連絡を取り合うことを大切にしていき、より交流を深めていきたいと思っています。

このプログラムに参加したことによってたくさんの人々と出会うことができ、大好きな語学の道の次の一歩へとまた近づくことができたと思います。

なので、ロサンゼルスと名古屋の友好関係がこれからも６０年...　７０年.....　１００年と続き、このプログラムが永遠に続くことを心から願います。

Difference

between Nagoya's Transportation System and
Los Angeles' Transportation System

名古屋市立名東高等学校２年 津田翔也

この２週間のロサンゼルス滞在中、ホストファミリーやLANSCAの方々など、多くの人々のおかげで、様々なところへ出かけることができました。出かける際、車を出していただいたこともありましたが、学校への通学や休日のショッピングなど多くは公共交通機関で移動しました。しかし、バスも地下鉄も日本と多くの点で異なりました。今回はホストファミリーから聞いた情報や現地のバス車内でもらった“Metro Bus and Metro Rail System Map”を参考に、名古屋のバスと地下鉄を比較の対象にまとめてみました。

1　バス

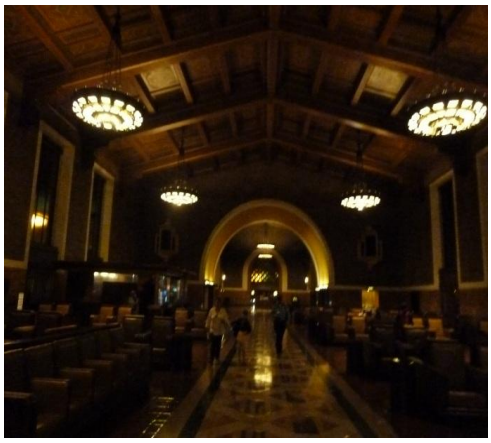
これは、ロサンゼルスの中心部、“Downtown”エリア内にあるバス停の一つです。多くのバス停がこのタイプの形をしています。このバス停はただ系統番号と行き先が書いてあるだけで、バス停の名前が書いてありません。なんて不便なんだ！と思ってホストブラザーに尋ねると、ほとんどのバス停は交差点の近くに立っていて、東西の通りの名前と南北の通りの名前を足したものが、バス停の名前になっているらしく、それを覚えていればいいので別にバス停に名前がなくても問題ないとのことでした。さらにバス停には時刻表も設置されておらず、どうやってバスの来る時間を時間を知るのかと、またホストに尋ねると、インターネットで調べればわかる、と言われました。ちなみに名古屋のバス停はちゃんと停留所名と前後のバス停、時刻表が英語でも表記されています。

このバスがロス市内を走るバスです。これは“Metro Local”というタイプのバスで多くの停留所に止まります。このほかに赤色の“Metro Rapid”という快速運転を行っているバスもありました。運賃はどちらとも市内均一で＄1.50で地下鉄全線とMetroバス全線の１日乗車券は＄5ととてもリーズナブルな価格設定となっ

ていました。最近 tap カードという名古屋のマナカカードのようなものが普及し始めていて、そのカードで乗車してくるお客さんを多く見かけました。降りる際は、ほとんどの場合、車内にある横長のロープを引っ張ると“Stop requested”と車内の電光掲示板で表示され降りることができます。

2　地下鉄

ロス市内の地下鉄は“Union Station”（総合駅）を中心に東西南北に延びており一部は市外にも伸びています。またここから違う都市や州へ向かう列車もあり、たくさんのホームがあります。ちょうど名古屋駅と同じ数ほどでした。この写真が駅舎の一部です。まるでハリーポッターの世界にいるかのような気分でした。このスペースは休憩室のように使われていて１日１本しか運行のない列車が多数あり、夜でも多くの人に利用されていました。



ちなみにこの駅からロサンゼルス・ドジャースの本拠地の“Dodger Stadium”へ行く無料のシャトルバスも運行されていてゲーム開催日には多くの人が利用しています。ロサンゼルスの地下鉄“Metro Rail”は Red, Purple, Blue, Green, Gold, Expo の 6 線で大半は地下を走行しますが、右の写真の Union station のように地上に駅が存在するところもあります。運行頻度はほとんどの路線が朝は 5 分間隔、昼間は 12 分間隔、夜間は 20 分間隔で運行しています。

名古屋の東山線が朝２分間隔、昼５分間隔、夕方 3 分間隔に比べるとやや運行頻度は少ないように思えますが、1 日の運行時間が長く、名古屋市営地下鉄が朝 5：30 始発、深夜 12：30 営業終了に比べ、Metro Rail では一番早い路線で始発が 3：30、終発が 1：00 過ぎと頻度よりも営業時間が長いのが特徴的です。また車内アナウンスも特徴的でアナウンスは英語とスペイン語で行われています。ちなみに、乗った感じはちょっと危なっかしく、急発進・急ブレーキといった感じで立って乗っているのはとてもつらかったです。また車内にはつり革もないのでつかむところも探さなければいけません。その点名古屋の地下鉄は様々な点で利用者にやさしい工夫を施されているように思いました。

まとめ

名古屋もロサンゼルスも公共のバスや地下鉄は市民の足には変わりないのですが、日本人として様々な点でのアメリカ仕様の箇所を発見することができました。個人的には改めて名古屋の公共交通機関のサービスのよさに気付きました。しかし、将来またロサンゼルスに訪れた際にどこでも行けるようにロサンゼルスの土地のことも学んでおこうと思いました。

編集後記

14days of wonderful experience in L.A

・はじめに

今回は名古屋市をはじめ、LANSCA メンバーのみなさんや、DMHS の先生や生徒の皆さん、そして暖かく迎え入れてくれたホストファミリーなどの支えにより、素晴らしい14日間(15日間？)を体験させていただきありがとうございました。今回手にした成長の糧は今後の自分の人生において大変大きなものになると思います。

・Day1-Day7

期待と緊張のなか、9 日 15：30 頃セントレアからロサンゼルス国際空港をめざし出発しました。ここからロサンゼルス派遣の幕があがりました。興奮のあまり飛行機の中ではろくな睡眠もとれず気が付いたら到着しました。初の時差ボケに何が何だかわからないまま入国審査をおえてゲートを抜けるとホストファミリー達が私たちの到着を待っていてくれました。すぐにやさしそうな人だとわかり安心の反面、睡魔はどんどん襲ってきました。そんな自分を気遣ってくれて、昼食後すぐに家のベッドルームに案内してもらい休むことができました。2 時間後、起きるやいなや、すぐに出かけることになり“Little Tokyo”という日本のレストランや日本風の建物が立ち並ぶエリアに行きました。気候も蒸し暑い名古屋の夏とは違い、夕方頃には 20℃ほどととても涼しく感じられ気持ちよく散策することができました。2 日目は朝から市役所を表敬訪問しロス議会の様子を見学しました。そこでなぜか河村市長と一緒にスキヤキソング歌っ

たのはかなり強烈な思い出です。ちなみに市長とは 4 日目の桜エキシビジョンの際にも一緒に燃えよドラゴンズを歌ったので市長とはまるでカラオケに行っているかのようでしたが、自分は歌うことが好きなのである意味貴重な体験をさせて頂いたと思います。5 日目は初の大阪以外のユニバーサルスタジオという表現は変ですが、ハリウッドのユニバーサルでショーやアトラクションを体験しました。6 日目は朝から大学見学だったのですが、体調を崩し早退してしまいました。ホストファミリーにもかなりの迷惑をかけましたが、ファミリーみんなのおかげで次の日には熱も下がりプログラムに復帰することができ、7 日目のロサンゼルス動物園見学と博物館プラネタリウム見学を行うことができました。最初の一週間を振り返ると、慣れない環境で不安な中本当の家族のように迎え入れてくれたファミリーに感謝してもしきれない一週間でした。

・Day8-Day14

後半戦は学校体験から始まりました。名古屋でいえば、8 月の中旬はまだ夏休みもあり、そろそろ宿題にも追われ始める時期ですが、ロサンゼルスでは 6 月から夏休みが始まり 8 月 14 日に新学年としてスタートしました。学校の建物自体は市内のほかの学校に比べるとそれほど大きくはないそうなのですが、その分生徒の団結力が高かったように思えます。

校内は2階建てで生徒用の集会場やさまざまなタイプの教室がありました。日本と違いその先生のもっている教室に移動するので毎時間移動するのが大変でした。9 日目の放課後、生徒会の主催で“Cultural Exchange Potluck Party”が開催され日本の伝統的な踊りや日本のアニメソングを紹介していました。また私たちも名古屋を紹介するために“まるはち音頭”を会場内の皆さんと輪になって踊りました。

10、11 日目はホストブラザーにいろいろなスポットへ連れて行ってもらい、アメリカの休日を体験しました。見るものすべてがとても新鮮で思わずはしゃぎすぎた時もありましたが、理想の休日の過ごし方の一例のような感じに思えました。　12 日目は、USC のキャンパスへ大学見学に行きました。校舎はまるで博物館のように綺麗でした。また、キャンパスツアーの説明によると、比較的安価でルームシェアできる寮や駅が

学校のすぐ目の前にあることなど、生徒が快適に通学できるためのサービスがとても充実しているように思えました。また多くの学部学科もあり、思わず留学したいなと思った大学の１つになりました。

13 日目は最後の学校体験のあと夕方さよならディナーがありました。スピーチの際この短い間にあったすべてのことが一気にこみあげてきて思わず感極まってしまいましたが、たくさんの「ありがとう」を伝えることができました。

そして最終日、いよいよ帰国の日になり空港に行くと…飛行機の機体トラブルで 4 時間遅れの知らせがありました。それには思わず一同驚きが隠せませんでしたが、先日涙を流した分笑顔で別れを告げることができました。

結果、成田空港周辺のホテルで 1 泊することになりましたが、みんなで思い出話をする時間が楽しく、15 日目の朝をみんなで迎えたこともよかったように思えました。ようやく成田空港を出発し、昼に中部国際空港に帰ってきました。着いたとき、帰ってきたという安堵感とロサンゼルスが恋しいという寂しさと複雑な感情になっていましたが無事今回の交歓派遣事業を終わることができました。

・最後に

様々なことを学んだ今回の交歓留学で、一番大事に感じたのは「今というその時間を大切にする」ということです。一見あたりまえのように思え、事前研修の際に先輩の話を聞いたときこの言葉を聞いたときあまりピンときませんでした。しかし現地で生活を体験していて日を追うごとにこの言葉の意味が分かってきたような気がしました。今では 1 日 1 日の生活がとても充実し大事なものとなっています。この体験は行かないとわからないことかもしれません。1 人でも多くこのレポートを読んだ人が自分もロサンゼルスに行きたいと思ってくれたら嬉しいです。

Nisei Week Parade

名古屋市立菊里高等学校１年　長濱祥子

私たちは２週間の L.A.でのホームステイのうち４日目に、リトルトーキョーで開かれている「二世週祭(Nisei Week Parade)」に参加をすることができました。また、Japanese American National Museum では二世のひとたちについてたくさん学ぶことができました。今回はこの「二世週祭」について調査するとともに、ホストファミリーが連れて行って下さったいくつかのお祭りとあわせて、日本とアメリカのお祭りについて調べてみました。

☆二世とは？

二世とは、一世の移民のアメリカ生まれの子供達を指します。法律上は正式なアメリカ国民で、日本に対して宣戦布告が行われた時も、敵国外国人として合法的に投獄されることはできないはずの存在でした。二世週祭は、そんな二世が、アメリカへの愛国心から始めたものです。それにもかかわらず、ルーズベルト大統領が大統領令に署名し、陸軍に指定軍事地域から住民を排除する許可を与えた後、7 万人以上の二世が、一世の親と共に強制収容所に送られたのです。一世の親の中には、自分達のアメリカ生まれの子供を日本領事館に登録して、日本国籍も取得させた人達がいて、これも二世に対する疑惑を招くことにつながりました。第二次世界大戦中、大部分の二世は 10 代か 20 代でしたが、収容所では、アメリカ政府当局により敵国日本につながりが強すぎるとされた一世より重視され、指導者的立場に立つことになります。

二世は、日米二カ国の文化の混ざり合った存在と言えます。家の中では、両親と日本の食べ物、習慣、時には宗教も共にしました。学校や家の外の生活では、アメリカの生活態度や好みを身につけます。ほとんどの二世は、日本語学校に通わされたものの、流暢ではありませんでした。ちなみに帰米というのは、二世の一部で、ある時期日本に送られて教育を受け、より日本的な考えを持った人達のことです。

↓1938 年の二世週祭

☆８月１２日　Nisei Week Parade

まずパレードに参加する前に、広い部屋に通されました。大勢の人が集まっていて、おにぎり、からあげ、やきそばなど、馴染みのある日本の食べ物をいただきました。その部屋では、ミスコンのようなものも開かれて、そこで選ばれたであろう人が、この会場を出た後、大きくてきれいに飾られた車に乗ってパレードに参加していました。(写真下)

私たちは、浴衣を着てこの大きな消防車(写真右中)に乗ってパレードに参加しました。浴衣を着ていたからか、現地の人から写真を求められたシーンが何度かありました。消防車は、LANSCA(Los Angeles Nagoya Sister City Affiliation) の方々が目立つようにとわざわざ選んでくれたそうです。パレードでは、消防車のほかに、オープンカー、トロッコ、馬車などの乗り物や、大きな出し物を引く人や踊りを踊って練り歩く方々もいました。とても盛り上がっているパレードの様子は、地元のテレビ番組でも放送されていたようです。パレードの最中、生放送のテレビ番組のアナウンサーに私たちは声をかけてもらうことができました。そして LANSCA　をアピールするとともに、メンバーの一人が名古屋ソングとして中日ドラゴンズの応援歌を歌わせていただきました。見ている人たちに手を振りながらゆっくりと消防車は進んでいきました。楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

＊リトルトーキョーについて＊

リトルトーキョーには、ジャンクフードの店から、寿司屋さん、日本食レストランがたくさんあるビルやスーパー、日本のアニメ・キャラクターのショップ、ゆかた・着物屋さんまで実にいろんなものがありました。ところどころに、京都のような街並みもありました。東京というより、日本が忠実に再現されていました。

＊ パレードに参加していた人々＊

このパレードには、たくさんの人々が様々な格好をして参加していました。ねぶたを引いて歩く人、笛や太鼓を奏でながら歩く人、阿波踊りをする人、盆踊りをする人などがいて、まるで日本全国のお祭りを一度に味わえるようです。他にも日本拳法の人は、型をやりながら歩いたり、着物クラブの宣伝、LA のエコヒーロー“FUJIYAMA ICHIBAN” というキャラクターの出し物もありました。また、名古屋開府４００年を記念して結成された“おもてなし武将隊”の人たちもいました。コスプレをしている人もよく見かけました。いろんな人がいて本当におもしろいです。

↓武将隊

↓　ねぶたと太鼓の行進　↓

＊パレードを見ていた人々＊

やはり二世週祭なので、日本人や日系人の方が多かったように思えます。来ている人の中には日本人と同じように、浴衣を着ている人がたくさんいました。他にも “トトロ” “どーもくん“ などの日本のアニメ・キャラクターの Tシャツを着ている人、日本で流行っている “ロリータファッション” やコスプレをしている人などもちらほら見ることができました。日本の文化はよく伝わっているのだと改めて実感しました。

↓金魚すくいの様子

↓出店がたくさんありました

☆カリフォルニアであったいくつかのお祭り

＊Summer Festival＊

とあるスーパーへ行きました。陳列されている商品はほぼ日本の製品、店員さんも日本人、チラシも日本語で本物の日本のスーパーのようです。ここでは寿司を食べました。寿司は下のようすべてラップに包まれていました。いつも食べているような味でおいしかったです。

そんなスーパーの屋上で Summer Festival が行われていました。純粋な日本人はたくさんいましたが、二世、三世の人、アメリカ人など様々な人種の人が集まっていました。浴衣を着ている人がとても多かったです。

お祭りでは金魚すくい、ヨーヨー釣り、射的、たこ焼き屋などたくさんの出店があって日本の夏祭りが忠実に再現されていました。余談ですが、お好み焼きを Japanese Pizza と表現することに驚きました。

＊Dragon Boat Festival＊

このお祭りは中国の戦国時代中に紀元前３４０-２７８年の間生きていた、古代の愛国者詩人(曲淵)の生および死を記念したものです。このレースは Dragon Boat というカヌーを２０人ほどのメンバーで力を合わせてゴールを目指すものです。たいがいが４艘ずつレースをします。大きな公園の中の広い池で行います。私たちは、池の周りの芝生で、サンドイッチを食べながら木陰の下でゆっくり見ました。どの舟もチームワークが素晴らしく、白熱したレースでした。応援も盛大で太鼓や笛など賑やかでした。いろいろな年代の人が参加していました。

☆まとめ

今回調べて驚いたことは、日本の文化がよく知られていることです。日本のことを教えようと思っていたのですが、現地の方々は浴衣、お盆、盆踊りなど日本のお祭りのことをよく知っていました。私が教えることは、あまりなかった気がします…。特に私のホストファミリーは何種類もの盆踊りを完璧に踊れて本当に驚きました。私はほとんどわからなかったです。お祭りのことに限らず、食や衣服、アニメなど日本のものがたくさんの人に親しまれていたので、嬉しかったです。

☆この事業についての感想

２週間は本当にあっという間に過ぎていきました。今回の事業では、二世週祭に参加しただけでなく、市議会、ユニバーサル、ハリウッド、大学、高校とたくさんの場所をホストファミリー達と訪れることができました。ホストファミリーと共に行ったことで、アメリカの文化をより深く学ぶことができたのではないかと思います。こちらがアメリカのことをどう思っているか伝えると同時に日本のことも伝え、異文化交流をたくさんできたことに満足しています。

特に高校（Down Town Magnet High school）に通った三日間は驚きと、楽しみをたくさん味わえました。アメリカは日本と違って、たくさんの人種の人がいます。高校の教室には、黒人、白人、中国人、メキシコ人とたくさんいました。また、よく言われていることですが、本当に自由な国であることを実感しました。そのためなのか、みんな一人一人が個人の意見をはっきりもっていました。そして、その意見を恥ずかしがらずに人に伝えていると感じました。私が普段しているのとはまるで違うディスカッションに圧倒されました。自立もしっかりしています。一方で、大量消費国なのでごみが多い、貧富の差が激しいなどいろんな問題点も見ることができました。この事業では、アメリカの良いところ、悪いところを含め本当にいろんなことを肌で感じることができ嬉しく思います。

実際に現地にいったからこそ体験ができたこともあります。現地の高校生の友達をたくさん作ることができました。今でも、交流を続けています。行っただけで終わりではないのです。他にも、お互いの国のジョークも教えあいました。学校のシステムも色々違いました。

このように、とても多くのことを経験することができました。この経験は、何事にも換え難いです。私の一生忘れることのない夏休みを送ることができました。

最後に、ホストファミリーの皆様に深くお礼申しあげます。お願いやわがままをしっかり受け止めて、色々な場所に連れって行って下さったり、手作りのおいしいご飯もたくさん用意していただきました。本当にありがとうございました。また、この派遣事業に尽力を尽くして下さった、LANSCA の関係者及び名古屋市の職員の皆様、教育委員会の皆様、引率の先生に心から感謝申し上げます。昨年の震災でも途絶える事のなかった長きにわたって続いているこの派遣事業が、これからも続きますように。そして、今後もこの輝かしい事業に参加できたことに誇りを持って、ロサンゼルスの友人たちと更なる交流を深めていきたいと思っています。ありがとうございました。

★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★
第２６回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業報告書
主　　催：名古屋市
発行・編集：名古屋市
―この印刷物は再生紙を利用しています。―
★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★♪☆★